

「もしボクが・・・・・・・・」

もしボクがバナナだったら、きっと、まっきいろでおおきくてもがっぱいつまってるバナナだよ。

もしボクがやまだったら、ゆきとくもがかぶっていてゴロゴロないている つよそうなかざんだよ。
でも、ぜったいだれもきずつけないんだ。

もしボクがトリになるんだったら、すごいでっかいやつ。つばさは大きくて、くびはながくてかっこいいやつだよ。みんなが、ボクをちかくで見るのはできないんだ。ボクは、とおくのほうをひとりでとんでいるりっぱなトリになるんだから。

もしボクがウシだったら、むこうに立っているウシがいい。あのウシをみていると、くろいウシになってみどりいろのしばふのうえに立つことが いちばんいいことだっておもうんだ。

もしボクがくもになれるなら、おおきなくろいあらしぐもがいいなあ。そしたら、かみなりをそこらじゅうにおとすんだ。
でももしかしたら、もっと小さくて、かるくて、ふわふわしてるくものほうがいいのかもしれないけど。

もしボクがテントウムシになったら・・・・・・・・
よくわからないよ。あんなに小さくなるのはちょっとこわいなあ。でも、とてもゆうかんで まっかにかがやくテントウムシかもしれない。そしたら、ボクもかんたんに空たかくとべるよ！

もしボクがサカナだったら・・・・・・・・いや、サカナにはなりたくないね。クジラならすこしはだいじょうぶかな。でもやっぱりサカナはいやだよ。

